

「文化」をキーにした文化観光振興に向けて

令和5年度宮津市総合教育会議 令和6年1月25日
宮津市企画財政部企画課文化スポーツ振興係



観光業が主幹産業である宮津市においては「文化は観光のキーポイント」になることから、豊かな歴史文化や文化財を活用した観光コンテンツの造成や最先端技術を用いた歴史文化コンテンツの情報発信など「文化×観光のまちづくり」を進めてきた。（令和3年度～5年度）

【令和5年度の文化観光振興に関連する主な動き】

- ◆5月：SDGsの達成に向けて優れた取組をする都市として「SDGs未来都市」に選定される
- ◆8月：平成29年度に認定を受けた日本遺産「300年を紡ぐ絹が織り成す丹後ちりめん回廊」が認定継続となる
- ◆9月：「文化庁京都移転記念イベント『きょう ハレの日、』」が宮津市を北部会場として開催される
- ◆10月：世界の音楽と地産の食を堪能するボーダレスミュージックフェスティバル「KYOTOPHONIE2023 天橋立」が開催される
「世界の持続可能な観光地Top100選」に選定
- ◆11月：ロックイベント「MIYAZU SEASIDE BOUND MUSIC LIVE」が開催される
宮津洗者聖若翰(せんじゃせいよはね)天主堂(カトリック宮津教会)が新たに国の重要文化財に指定される
- ◆12月：「天橋立 ジャズフェスティバル2023」が開催される
文化財保護行政のマスタープラン・アクションプランである『宮津市文化財保存活用地域計画』が文化庁長官から認定される
京都府立丹後郷土資料館リニューアルの概要が発表される(10月の「文化庁京都移転記念フォーラム」で名誉館長が記念講演等)

⇒◆宮津市の進めている持続可能な観光まちづくりに向けた取組が世界中の観光地の代表者・研究者から高い評価を受けたところ。

- ◆令和5年3月の文化庁京都移転を受け、記念イベントをはじめ「京都移転を契機とした地域文化振興の動き」も出てきているところ。
- ◆民間主体の音楽イベントが開催されるなど、地域の方々が主体となった「文化×観光のまちづくり」が進んでいるところ。
- ◆令和7年に開催される「大阪・関西万博」において世界中から観光客が関西に訪れることが期待される中で、「海の京都の大きな魅力の一つである豊かな歴史に育まれた文化」をしっかりとアピールし、交流につなげていくことなどが重要。
- ◆令和8年度中に「丹後の歴史・文化の探訪と観光の拠点」としてオープン予定の「地域の様々な人々と文化をつなぎ交流と創造を育む『ハブミュージアム』」は、宮津市だけでなく「北部広域文化観光の拠点」となっていくもの。

